

# トータルケアNEWS

4 3 2 0 1 1 . 1 . 1 4

発行 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会  
〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5  
TEL 018-864-2711 FAX 018-864-2701  
URL <http://www.akitakenshakyo.or.jp/>  
E-mail [chiiki@akitakenshakyo.or.jp](mailto:chiiki@akitakenshakyo.or.jp)

## CONTENTS

### 特集

1. 男鹿市社会福祉協議会における地域福祉トータルケア推進事業の取り組み ..... 1
2. 男鹿市北浦地区民生児童委員協議会における「安心安全マップづくり」の取り組み ..... 2 ~ 4

このNEWSは、市町村社会福祉協議会と協働で取り組む、地域福祉トータルケア推進事業及び各市町村社協が取り組んでいる重点的な事業や地域福祉活動の特徴などをお知らせしています。

今回は、男鹿市社会福祉協議会と男鹿市北浦地区民生児童委員協議会の取り組みについて紹介します。

## 1. 男鹿市社会福祉協議会における地域福祉トータルケア推進事業の取り組みについて

男鹿市社会福祉協議会（以下、「市社協」という）では、市社協の単年度事業計画及び今年度策定した地域福祉活動計画の中に、地域福祉トータルケア推進事業（以下、「トータルケア」という）を位置づけ事業展開を行っている。

市社協の地域福祉活動計画は、中学生を対象とした福祉意識調査などを踏まえて作成されたものであり、非常に中身の濃い計画となっている。

地域福祉活動計画の中には、地域に入り込み住民座談会の開催を盛り込むなど、地域や住民課題の把握に努めるとともに、住民の福祉活動への参画を図る取り組みを強化していくことにしている。

市社協の板橋事務局長は、「トータルケアは、新たに活動を作るのではなく、これまで行ってきた市社協の地域福祉活動をより強化するものとしてとらえている。地域福祉活動計画の策定を契機に今まで以上に住民や関係機関と連携しながら地域福祉活動の推進を図っていききたい」と語る。

また、「市内には9地区社協がある。高齢化が50%を超える地区もあるなど地域の高齢化が進んでいることから、地域の支え合いを強化していききたい」とこれからの地域福祉推進に向けて話していた。



男鹿市社協の板橋事務局長

## 2. 男鹿市北浦地区民生児童委員協議会における「安心安全マップづくり」の取り組み

男鹿市北浦地区では、同地区の民生児童委員協議会が独自で地域の「安心安全マップ」（以下、「マップ」という）づくりを進めている。

きっかけは、全国民生児童委員協議会が平成18年から始めた「災害時一人も見逃さない運動」である。

北浦地区は、平成22年4月現在、人口3,344人に対し、65歳以上の高齢者が1,421人と高齢化（42.5%）が進んでいる。

また、一人暮らし世帯が200世帯、75歳以上の高齢者夫婦世帯が157世帯、空き家は159戸となっている。

マップは、北浦地区の全13地区に配属されている15人の民生児童委員が手分けして情報を集め、北浦地区の一人暮らし高齢者、75歳以上の高齢者夫婦世帯、障害者がいる世帯、寝たきり高齢者がいる世帯、空き家が目でわかるようになっている。

マップは北浦地区民生児童委員協議会の相場紘士副会長が自宅で独自のソフトを使い作成した。

マップ作成にあたり相場副会長は、「以前はゼンリンの地図を活用していたが更新が大変だったので、ソフトを開発した。地図の更新は4月と10月の年2回行っている。大変だったのは、個人情報の承諾書をもらうこと。民生児童委員が一軒一軒回ってマップ作製の説明を行いながら承諾をいただいたが件数も多くかなりの労力を費やした。入力作業には3カ月かかった。」とその大変さを語っていた。

マップは地区の消防署にも配布されているほか、地区にある小学校には緊急時避難場所等が記されたマップも配布しており、地区の様々な機関とも連携を図りながら、お年寄りから子どもまで安心して暮らせる地域づくりを目指している。

北浦地区民生児童委員協議会では、マップ作成のみならず、かかりつけ医療機関や親類の連絡先などを記入した用紙を保管する「災害・救急情報キット」（以下、「キット」という）も作製し、一人暮らし高齢者世帯や高齢者夫婦世帯に配布している。

キットについても個人情報が含まれていることから、一人ひとり承諾書をとって配布した。

キットの作成も、個人情報を保管する円筒状の筒は購入したものの、筒に貼るシールはすべて相場副会長が自宅で印刷したという。

キットは、一人暮らし高齢者宅等へ配布し、普段は冷蔵庫の中に保管し、緊急時にかか



マップとキットを手取る北浦地区民生児童委員協議会の小山内会長（左）と相場副会長

りつけ医や緊急連絡先などの情報がすぐ見れるようになっている。

以上の取り組みについて、北浦地区民生児童委員協議会の小山内慶三郎会長は、「マップとキットをつくることによって地域の連帯感ができたことが何より大きな成果だ。民生児童委員も今まで以上に地域に目を配り情報収集に努めるようになった。また、マップやキットの作製は北浦地区社会福祉協会とも連携を取って行っている。地区社会福祉協議会の活動にも民生児童委員協議会としても常に全面的に協力しており、車の両輪という認識で福祉活動を進めている。今後も住みよい地域になるようきめ細かい事業を展開していきたい」と話していた。

また、北浦地区は昭和58年の日本海中部沖地震による津波の被害も受けていることから、津波による被害が想定される場所も地図に記したマップも別途作成しており、まさしく安心・安全に暮らせる地域づくりを目指した取り組みを行っているところである。

しかし、北浦地区は、昔から住んでいる住民が多く近隣のつながりも残っている一方で、高齢化や過疎化により支え合いの仕組みが以前に比べ弱くなってきているのも事実である。

北浦地区民生児童委員協議会のこうした取り組みは、弱くなりつつある地域のつながりをもう一度つなぎ合わせ、いざという時のみならず、日常的に支え合う仕組みづくりを構築する第一歩として注目される。



キットを配布した世帯の情報をまとめた台帳。これもすべて手作りである。

### 3. 地域の支え合いの広がりに向けて

今回の市社協及び男鹿市北浦地区民生児童委員協議会への訪問取材を通じて強く感じたことは、近隣のつながりづくりと日ごろからの地域での支え合いの仕組みづくり、及び情報の共有である。

近年、民生委員活動や町内会活動の一つとして注目されている活動に、災害時における一人暮らし高齢者等の「見守りマップ」(要支援者マップ)がある。

これは、これまで行ってきた小地域ネットワーク活動を目に見える形に現すとともに、活動をより確かなものにする方法として評価される。

もちろんマップ作りを通して災害が発生時に高齢者や重度の心身障害者など支援を必要とする方々がどこに住んでいるのか、支援に協力する人たちがどこにいるのかを地域住民が把握しておくことは重要なことである。また、「キット」などのように、緊急時に必要な情報が確認できるようになっているものが、「冷蔵庫の中」というように共通のルールの下にあることも重要である。

その上で、「マップ」や「キット」をより価値の高いものとしているのは、掲載情報を

こまめに更新すること、関係者が情報（保管場所・記載項目等）を共有している環境をつくること、日常的に近隣及び支援者などと良好な協力・援助関係が築かれていること、に取り組んでいる点が挙げられる。

「マップ」及び「キット」は、いざという時に迅速に対応できるシステムとして構築されていることが不可欠であり、その手段として定期的に避難訓練を開催するなどの取り組みが期待される場所である。

男鹿市社会福祉協議会並びに男鹿市民生児童委員協議会には、これまで両協議会が協力して取り組んできた地域福祉活動をより強化する視点から、北浦地区での取り組みを一つのモデルとして、地域の支え合いの強化に取り組んでいただくことを期待したい。

#### 編集後記

秋田県社協では平成17年度から県内市町村社協と協働で、安心づくり（総合相談・生活支援の仕組みづくり）、福祉を支える人づくり、みんなの生きがい・喜びづくり、福祉による地域活性化（地域福祉推進基盤づくり）の4点を重点項目として、社協がより住民に見える形で地域と関わり、地域課題と向き合い解決を図っていくシステムを構築する目的でトータルケアを実施している。

そのシステム構築に欠かせない手法として、トータルケアでは“コミュニティソーシャルワークの実践”を掲げている。

コミュニティソーシャルワークは、一人ひとりが抱える生活課題に着目して、それを解決する仕組みづくりを目指すものである。

そして、一人ひとりが生活している環境や背景に着目し、制度的なサービスと近隣住民やボランティアなどの非制度的なサービスを結び付け支援のネットワークを作っていくことであり、一人ひとりの課題を地域の課題として普遍化する手法である。

今回、男鹿市社協を訪問し話を伺う中で、地域福祉活動計画の推進項目にトータルケアの推進を掲げ、コミュニティソーシャルワーカーを中心に住民座談会を通して地域に入り込み、住民と一緒に課題を共有し解決を図ろうとしていた。市町村社協は、地域住民に一番近いところで活動している団体であり、様々な地域の課題や個人や世帯の状況を把握しているという強みがある。

男鹿市社協の取材を通して、地域住民の課題を拾い上げそれを共有化しながら解決していくという姿勢が感じられたことに感銘を受けたとともに、引き続きトータルケアを進めていくことが必要であると感じた。

秋田県社会福祉協議会地域福祉部主幹 門脇琢也